

クロマツ探検隊 I

5月25日（火）酒田市の西荒瀬保育園に隣接する新林国有林1131林班内でクロマツ探検隊（第1回目）を実施しました。

前日は強風と豪雨の天気でしたが、当日は園児達の願いが届いたのか、くもり時々薄日がさすまざるの天気になりました。クロマツ探検隊の隊員は年長組園児37名、保育園先生4名、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター4名、庄内森林管理署1名、総勢46名でクロマツ林の探検を行いました。

クロマツ探検隊の出発式では、園児達が探検隊のルールと庄内砂丘のクロマツ林の歴史について学びました。探検隊の隊長に保育園の先生が、隊長補佐に朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター及び庄内森林管理署職員が任命され、園児の皆さんは隊員に任命されました。

クロマツ探検隊隊長の指示のもと、各班に分かれて探検に出発しました。隊員の皆さんは、最初に保育園に隣接している市道からクロマツ林を眺め、クロマツ林と農地及び住宅地などの関わりから、クロマツ林がいかに関わりから、クロマツ林が地域にとって大切なものであることを学びました。次に、農地を横断してクロマツ林の中に入ると、触ると危険なツタウルシを観察したり、タヌキ糞やオオタカに食害されたと思われる野鳥の羽などを発見しました。隊員の皆さんは、見るもの見るものに関心を示し、隊長補佐にいろいろな質問が浴びせられました。

しばらく、歩道に向かうと鳥の鳴き声とともに飛翔しているアオサギやダイサギを発見しました。隊員の皆さんからは歓声上がり、よく見てみたいとの要望に答え、双眼鏡による野鳥観察を行いました。双眼鏡をのぞいた隊員からは、「見つけた、見つけた」とか、「巣で何かしているよ」など、それぞれの隊員から声が上がりました。また、隊長補佐が備え付けた野鳥観察用望遠鏡には、隊員皆が興味を示し、順番待ちで望遠鏡をのぞく盛況ぶりでした。さらに、隊長補佐が持ってきたアオサギの卵のからを隊員に見せ、薄青色の卵を観察しました。また、アオサギは、西荒瀬地区の田んぼや河川で魚類を主な食べ物としていると聞いて隊員の皆さんは、クロマツ林や西荒瀬地区の自然の豊かさを感じていました。

隊員の皆さんがクロマツ林で見つけた「小さな宝物」を持って、保育園に戻るようになりました。保育園に戻る途中では、市道の路肩等に落ちていたゴミ拾いも体験しました。保育園では隊員一人一人が持ってきた「小さな宝物」を使い、万華鏡遊びにチャレンジしました。隊員の皆さんからは、「僕の万華鏡綺麗だよ」、「私の万華鏡も見てちょうだい」などと万華鏡を隊員同士交換して鏡がもたらす不思議にふれていました。

最後に、総隊長（園長先生）からのお話を聞き、隊員の中からは、「楽しかったよ」「今度はいつあるの」などの担当者として嬉しい声も聞きながら、クロマツ探検隊Iを終了しました。



朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター